

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立面瀬小学校（宮城県）

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒988-0133
宮城県気仙沼市松崎下赤田58番地

E-mail omo-s14@marble.ocn.ne.jp

Website http://www.kesennuma.ed.jp/omose-syou/

児童生徒数 男子 166名 女子 154名 合計 320名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 主な活動内容

学区には、古くから地域の水田を潤し、気仙沼湾の生態系や養殖業を支えてきた面瀬川が流れ、児童が生物多様性や山・川・里・海のつながり等について学ぶ最適な環境が整っている。

恵まれた学習フィールドを生かし、地域の企業や行政、大学等と連携・協働し、地域に根ざした探究型の学習活動を展開した。

6年間の継続した取組を通して、児童には、地域の人や自然を大切に、それを未来につなげるために自分にできることを進んで行おうとする意欲が生まれ、実践に向けての態度が育ちつつある。学習したことで得た知識や体験の意味を理解し、相互を関連付けながら考える思考力が高まってきている。

<1年生>「おもせのしき」

(野菜づくり 面瀬川・磯遊び 幼保との連携 天旗あげ)

<ねらい>四季を通じた栽培活動や遊び、季節の行事等を通して身近な自然や人々とふれあい、地域のよさに気付き、地域に親しみをもつ。



1年生「おもせのしき
～うみであそぼう」

<2年生>「はっけん おもせ」

(面瀬川の生き物 身近な野菜づくり 復興まちたんけん 豆腐づくり)

<ねらい>季節の様子や自然、いきものを観察し、川や海の自然に進んで親しもうとする。野菜の栽培や町探検を通して、地域の人と触れ合い、植物の変化や自然環境と人のつながりに気付く。



2年生「はっけんおもせ
～野菜を育てよう」

<3年生>「みらいにのこそう面瀬川のいきものたち」

(水生生物調査 地域の人と野菜づくり 生き物図鑑)

<ねらい>いきもの調査と観察を通して、面瀬川には多様な生物が生息していることに気付き、川・海と生命のかかわりについて考える。



3年生「みらいにのこそう面瀬川
のいきものたち～川の生き物調べ」

<4年生>「山・川・里・海の生命を育む面瀬川」

(水路観察 米づくり 源流探検 面瀬川の歴史 「森は海の恋人」学習会)

<ねらい>面瀬川流域や河口域の土地の使われ方等、面瀬川と生活のかかわりを探究し、水辺環境を守るためにできることを考え、発信する。



4年生「山・川・里・海の生命を
育む面瀬川～面瀬川源流探検」

<5年生>「海と生きる気仙沼～港町元気プロジェクト」
(港町調査 漁船見学 親子魚料理教室 養殖体験)
<ねらい>産業, 食, 文化等の視点から地域を多面的に捉え, 自然環境と産業のかかわりを探究し, 海洋環境について考えたことや漁業復興への思いを発信する。



5年生「海と生きる気仙沼
～マグロ船見学」

<6年生>「創生面瀬～ぼくらの桃源郷プロジェクト」
(ふるさと農園づくり 地域住民との交流)
<ねらい>町づくり協議会と連携を図り, よりよい地域の在り方について探究し, 地域の人と共に「面瀬川ふれあい農園」活動に取り組み, ふるさとへの思いを発信する。



6年生「創生面瀬～ふるさと農園
づくりに向けての話し合い」

(2) 今年度のプログラム改善点と児童の変容

体験だけにとどまらず, 資質能力, 価値観の向上を大切に, カリキュラムを改善した。

- 従来までの環境に関する活動を見直し, 児童と地域の実態に合わせ「海洋」「福祉」に関わる視点を盛り込んだ。
 - ・ 岩井崎で自然物を活用して遊んだり, 自然に親しんだりする活動を行った。(1年生)
→各学年の発達段階と活動内容に合わせて海に関する活動を取り入れた。1年生の児童は海を以前より身近なものに捉えられるようになった。
 - ・ 面瀬川河口から源流までをたどり, 川の周りの様子や用水路を調べる校外学習を取り入れた。(4年生)
→山・里・海の繋がりを体験的に探究させることができた。
 - ・ 岩井崎での自然探索や気仙沼湾周辺の水産関連施設の調査を取り入れた。(5年生)
→気仙沼が地理的にも産業的にも海の恵みを受けていることを実感させ, 水産業の全体的構造を捉えさせることができた。
- 水生昆虫や魚等に加え, 児童の興味・関心を生かして面瀬川のサケについての探究活動を行った。(3年生)
→児童の関心や体験をもとに課題や活動を設定したことで, 主体的に活動する様子が見られた。
- 地域と連携し, 思いやりの心を育むという観点から, ふれあい農園の近隣にある高齢者施設との交流活動を取り入れた。(6年生)
→地域には, 様々な人が住み, 自分たちが地域の人に支えられていることに気付かせることができた。

- 生活科「おもせのしき～おもせっこまつりをしよう」に近隣の幼稚園や保育所との交流活動を取り入れた。(1年生)
→秋の公園で見つけた自然物を活用して遊ぶ際に、幼稚園、保育所の児童を招待し、交流した。事前・事後の学習を通して、小学生は園児との交流体験への思いや願いを膨らませたり、自分自身の成長を感じたりすることができた。幼児・児童間の交流の中で、それぞれの発達段階に応じた思いやりの気持ちが育まれた。
- 海洋教育推進実践校として「こども海洋サミット in 東北」に参加した。(5年生)
→代表児童が実践を発表し、5年生全員がポスター発表を聴取した。他校の取組を知ることによって視野を広げるとともに、地域のよさを再認識した児童が多かった。

(3) 保護者、地域住民の意識の変容

- 学校行事や学習参観日に活動の様子を児童が発表した。また、学校評議員会・外部評価委員会で、地域連携の取組の成果を報告した。その結果、学校の活動に関心を示す保護者や地域住民が増えた。長年継続して取組むことで学校の特色としての認識が高まっている。

(4) 次年度改善を図ろうとしている点

- 地域に根差した環境学習プログラムを継承し、児童や地域の実態に合わせて、改善を図りながら実施する。ホールスクールとしての取組を強化する。
- 重点校形成事業サステイナブルスクール(日本/ユネスコパートナーシップ事業)、海洋教育パイオニアスクールプロジェクトのネットワークを活用し、他校と連携・協力しながら学習を進め、成果を発信する。
- 地元企業、大学、各専門機関との連携の継続と強化に努める。
- ESDが育む学力を整理し、教職員共通理解の下、教科横断的にESDの実践を重ねる。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）